



まちだの新たな 学校づくり通信

Machida New Concept School 2040

2024年7月17日発行

新しい校舎紹介号


1頁 新しく建設する校舎の紹介
4頁 PFIってなに？

ともに学び、ともに育つ学び舎づくりを目指して

【発行】町田市教育委員会

2028年4月から使用開始！

 **新しく建設する校舎を紹介します！** 

カラー版は
こちらから 



本町田地区・南成瀬地区において2028年4月から子どもたちが学校生活を始める新しい校舎は、PFIという手法で整備します。現在、新校舎を整備するPFI事業者との2024年9月の契約締結に向けて手続きを進めていますが、「新しい校舎はどんな感じになるのかな？」という疑問にお答えすることで、「新しい校舎が楽しみ！」とだけ思っていただけで、新しい校舎のイメージを紹介します！

新しい校舎は今とどう変わるのかな？



町田市立学校の多くは高度経済成長期の子ども数が急激に増えた時期に建設された古い校舎なので、老朽化が進んでいることはもちろん、昨今の教育環境の変化に十分に対応することも出来ていません。そこで、新しい校舎は今の校舎が建てられたころにはなかった「学校を取り巻く環境変化」に対応できる建物にしていきます。

古い校舎での困りごと

例えば…

これまでの教員が児童に教える授業だけでなく、児童同士で学び合う授業をより一層進めるためには、教室の広さが十分ではない

水筒や学用品など持ちものが aumentando いるけれど、収納スペースに収まらない

特別支援学級が設置されていない学校がある

学校運営に協力してくれている方々が活動するためのスペースや机が足りない



新しい校舎で目指すこと

例えば…

広い教室にICT機能や学用品をしまえる十分な収納スペースを用意して、一人ひとりの主体的な学習や、グループでの協働的な学習をしやすいよう

特別支援学級をすべての学校に設置し、教育環境をさらに充実させよう

学校運営に協力してくれている方々が活動や準備をするスペースを作り、地域との協働をさらに充実させよう

地域の方がもっと集える愛着のある地域拠点にしよう



新校舎の詳細は
次のページ

☀️ 学校がこう変わります ☀️

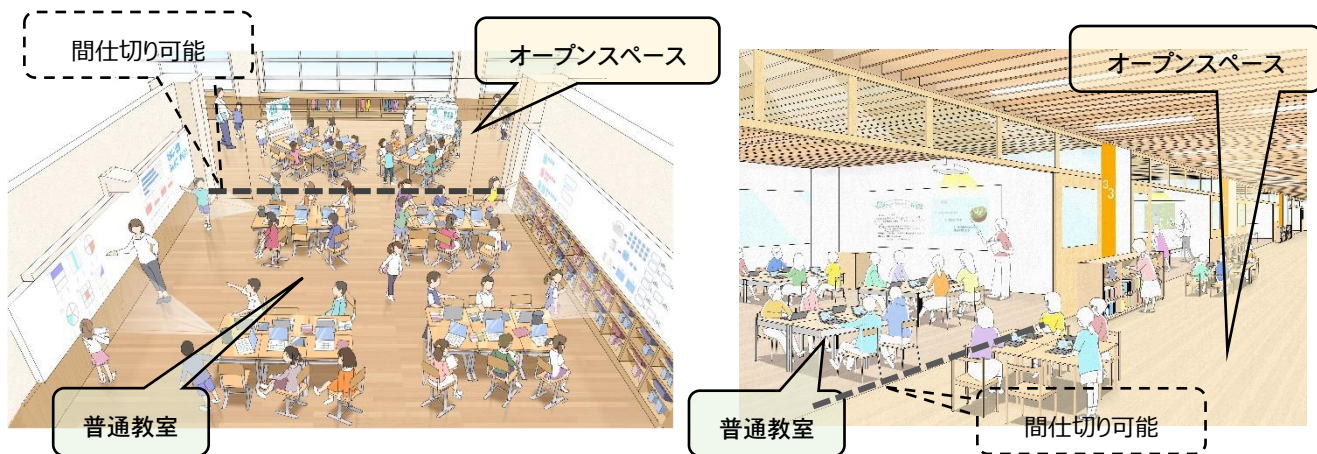
普通教室を広くします！

💡 教室と連続して幅 5 m の「オープンスペース」を設置します。

広さ：（現在）約 64 m² → 約 110.5 m²（オープンスペースを含む）

💡 ゆとりある教室になることで、主体的・対話的な学びのためのグループ学習がしやすくなり、学年集会など様々な活動も教室の前でできるようになります。

💡 今より広いロッカーを整備することで、机の周りの荷物を収納できるスペースを確保します。



ラーニングセンターを設置します！

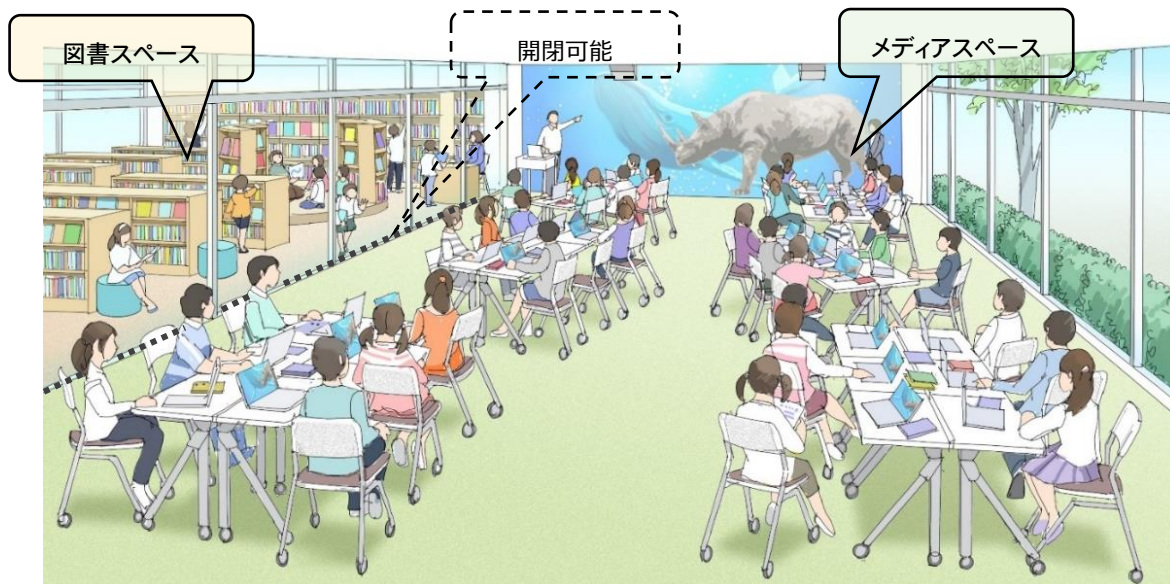
💡 図書やメディアの閲覧や、これらを活用しながら多様な学習活動を展開することができる「ラーニングセンター」を教育活動の拠点として整備します。

💡 ラーニングセンターは授業での活用はもちろん、メディア機能を活かしたイベントも開催でき、地域の方の利用もできるようにします。

💡 多目的ホール（2～3 教室分）を各種集会やランチルーム、軽運動の場として新たに整備します。

💡 体育館（アリーナ）はとても大きくなります。（現在）430～500 m² → 約 700 m²

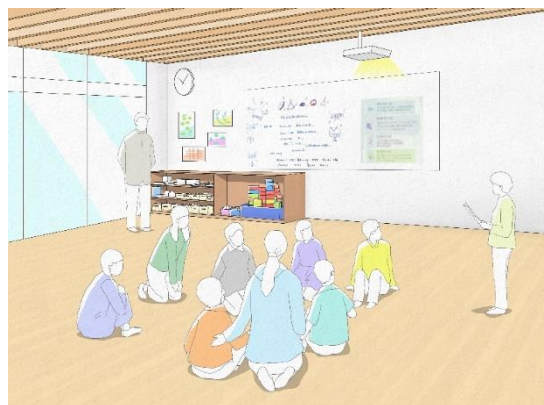
💡 外部の視線を遮断し、雨天の影響を受けないように、プールは屋内に整備します。



ラーニングセンターのイメージ

特別支援学級・特別支援教室を設置します！

- 💡 知的障がい・情緒障がいそれぞれの特別支援学級（固定級）を設置します。
- 💡 特別支援学級（固定級）は、間仕切りできる教室、プレイルーム、職員室、準備室（倉庫）、専用トイレを整備します。
- 💡 特別支援教室（サポートルーム）は、全体指導用教室及び個別指導教室を整備します。



プレイルームのイメージ

学童保育クラブ・まちとの環境をよりよくします！

💡 学童保育クラブ

- 児童数の変動に対応できるようにします。
- 児童の安全や心地よさに配慮できるよう育成スペース（専有・共有）、小空間（クールダウンスペース）、専用の台所設備・静養室・トイレ（まちととも共有）・倉庫・事務室・玄関を整えます。



💡 まちととも

- 新たに整備する多目的ホール等は、教育活動に続き、まちとともで優先して使用できるようになります。
- 学童保育クラブの児童がまちともの活動に参加しやすくなるよう、学童保育クラブの区画とまちともの区画を隣接して整備します。

学校施設を地域活動の拠点とします！

- 💡 「学校施設活用区画」を地域の文化・スポーツ団体等に地域開放することや、児童や地域住民が参加できる講座やイベント等のコンテンツを企画し提供することで、学校と地域の協働をさらに充実させ、学校がこれまで以上に地域拠点となるようにします。
- 💡 避難施設のスペースの拡充や PFI 事業者が避難所運営を支援することなど、防災拠点としての機能もこれまで以上に充実させます。



? 学校施設活用区画って… ?

セキュリティ等の観点から、新しい校舎では学校の教育活動だけで使用する部屋（普通教室など）と、放課後活動や地域開放でも使用する部屋[※]の区画を分けて配置します。このうち、放課後活動や地域開放で使用する部屋がある区画を「学校施設活用区画」と名付けました。

※学校施設活用区画に配置する部屋：体育館（アリーナ）、ラーニングセンター、多目的ホール、音楽室、家庭科室、コミュニティルーム、学校管理員室、まちととも準備室 等

児童が「多様な体験・活動」を経験できるコンテンツを提供します！

- 💡 希望する児童が「多様な体験・活動」を経験することができるコンテンツを放課後に実施します。
- 💡 学校や学童・まちとも等が利用していない「学校施設活用区画」の部屋を活用して、週 4 コマ以上実施します。
- 💡 月 2 コマ以上は、可能な限り保護者や地域住民の皆さん等と協力したコンテンツを提供します。



◇提供するコンテンツの例◇

- a 知育・学習支援事業
(英語、英会話、書道、習字、プログラミング、学校の予習・復習、絵画、造形、音楽、楽器、そろばん)
- b 運動、体操、ダンス、体力づくり
- c 児童の体験創出事業
(職業、社会の仕組み、地域住民・保護者との交流、異文化交流、ものづくり、生活・食、伝統文化・郷土・歴史)

聞き慣れない言葉かもしれません・・・

「PFI」ってなに？

これまでのPFI手法による学校整備についてのお知らせに対していただいたご質問と回答を紹介いたします。



Q. PFI ってどういう意味？

「PFI」とは、「プライベート (P)・ファイナンス (F)・イニシアチブ (I)」の頭文字をとったもので、一般的な委託や請負と同じく公共事業を実施するための手法の一つです。

Q. PFI 手法で校舎を建てると、子どもたちの学校生活に何か変化があるの？

教育活動にはPFI事業者は関与せず、これまでどおり教員が行います。

一方、これまで教員の負担となっていた、施設の維持管理や地域開放業務などをPFI事業者任せすることで、これまで以上に教員が子どもたちと向き合う時間を作り、子どもたちの学校生活がより良いものとなるようにします。



Q. 民間のノウハウを活用した効率よい設計とか質の高いサービスっていうけど、PFI事業者がなんでも自由にできちゃうの？

民間のノウハウを活用したサービスの向上はこれまでPFIのメリットの一つとしてお知らせしてきましたが、PFI事業者は要求水準書*の範囲で事業を実施しますので、なんでも自由にできるわけではありません。また、業務の実施状況は教育委員会がチェックします。



*「要求水準書」とは、市が事業者に対して求める業務の範囲や実施方法等の最低限の水準などを示した文書です。今回の通信ではこの要求水準書を一部紹介しています。
市ホームページでは要求水準書の全体版を公開していますので、是非一度ご覧いただき、新しく建設する校舎にご期待ください💡

「本町田地区・南成瀬地区 小学校整備等 PFI 事業」のページ👉

